右籾才覺いたし、蒔附試候樣可被致候事、

戌十一月

〔牧民金鑑十一〕明和五子年十月四日申渡書付

各御代官所御預所村々地先海邊附遠淺の場所、幷本田の內に茂、潮入場所、御取箇附無之場所は、以來湖稻籾植付候樣、村々吟味可被遂候、海邊遠淺之場所は、稻苅株江居芥殘寄洲出來、追年地高に相成候得ば、本田御高入にも相成、御益の事に候、既に當子年備前守支配所葛西領村々地先海表江試植付候處、湖稻出來いたし候、右體海邊付、幷潮入の場所吟味いたし、以來植付時節、湖稻籾植付候樣可被致候、

右之趣申渡候樣、松右近將監殿被仰渡候間、得其意以來無忘却、右體の場所巨細致吟味、植付可相成場所有之候はゞ、凡反別書附御取箇方江可被差出候、以上、

子十月

〔類聚名義抄七〕早稻ワセ　植音陟ワセノタネ　稑音六オクテ、ワセ、　穋或　穄俗　稌正　穄或　穄俗　稙正、ワセオクテ、

〔伊呂波字類抄和殖物附殖物具〕早稻ワセ　稑先熟田稑種　穛已上ワセ

〔八雲御抄三上地儀〕田○中略　わせ　はやき也○中略　はやわせ　門田わせ万○中略　ゆきあひのわせ万、なとめにゆきあひのわせと云り、　むろのはやわせ

〔下學集下草木〕早稻ワセ

〔書言字考節用集六生植〕早粳ワセ時珍云、粳稻六七月收者、　早稻同

〔藻鹽草三地儀〕田

わせ田　さやき也、わがせこがわさ田つくれる秋の田のわさほのほぐみとよめり、　わせ　これもはやき也、あるひはむろのはやはせとも云り、　門田わせ　ゆ